

成果の説明書

(氏名) 藻利 衣恵	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 現在、15年ほどの研究のとりまとめを行っており、毎週、専門の先生方と検討会を行っている。本年度も、引き続き、それを継続する。(2022年5月に、監査理論研究会〔鳥羽至英元早稲田大学教授主催〕で報告する予定である。)</p> <p>(2) 本年度の成果の説明書(1)と関連して、Adjustment of allocation plans for stock-based compensation costs と題する論文が、経営関連学会協議会の査読を通過し、Journal of Japanese Management 5(2)に掲載され、2021年5月に刊行された。</p> <p>(3) 本年度の成果の説明書(1)と関連して、「ストック・オプション取引における資本説の起源——実務対応報告第41号「取締役の報酬等として株式を無償交付する取引に関する取扱い」における没収を題材にして——」と題する論文が、『ディスクロージャー&IR』第17号と第18号に掲載され、2021年5月および8月に刊行される予定である。</p> <p>(4) 本年度の成果の説明書(1)と関連して、『高崎経済大学経済学会ワーキング・ペーパー』に掲載中であった「株式報酬費用の期間配分」と題する原稿が、『高崎経済大学論集』第64巻第3号に掲載され、2022年3月に掲載された。</p> <p>(5) 佐藤紘光・鈴木孝則編著『会計情報のモデル分析2』に「第5章 「報酬の凸性、会計操作とプロジェクトの継続」 解題」が掲載され、2022年3月に刊行された。</p> <p>【教育活動】</p> <ul style="list-style-type: none">● 講義 <p>【財務会計Ⅰ・Ⅱと上級簿記】</p> <p>コロナ禍の対応に伴い、Teamsを取り入れながら、Teamsを使用したリアルタイム型講義を実践した。毎週の課題と、中間・期末のレポートに対しても、全員にコメントを行った。</p> <p>【ゼミ】</p> <p>全学年に対して、対面講義ないしはZoomを利用したリアルタイム型講義を行った。また、OB・OGを含めたZoom飲み等により、交流を図るようにした。</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 基礎演習(2年):履修者が少なく会計の知識が少ない学生も多い学年であったので、ゼミ中に積極的に質問を行い、学生の理解を深めようと試みた。簡単なゼミではないが、履修者全員が頑張っついてきている。➤ 演習Ⅰ:昨年度に引き続き、2グループでグループ研究を行った。その結果、日経インナー大会は予選落ちに終わったものの、その際に高レベルなプレゼンテーション作成・発表能力を獲得し、うち1班が2度目の経済学部プレゼンテーション大会で優勝した。また、12月に明治学院大学(山田ゼミ)・武蔵大学(山下ゼミ)・國學院大學(中田ゼミ)とのインターゼミでも、2ブロックに分かれて発表を行い、両班ともが優勝と個人章を獲得した。さらに、2月に早稲田大学商学部大鹿ゼミとのインターゼミでも、学長杯で優勝したグループが、オンラインで発表を行った。➤ □演習Ⅱ:自由テーマの論文をほぼ全員が提出し、2月卒論発表会・謝恩会をオンラインで行った。また、卒論発表会優勝者が、早稲田大学商学部大鹿ゼミとのインターゼミで発表をした。卒業論文集は、学内で図書館に所蔵し、ホームページでも掲載した。	

2 その他の事項

- 入試運営委員
- 高崎経済大学生協同組合 特定監事
- 日本学生経済ゼミナール関東部会 第 61 回インナー大会 プレゼンテーション部門審査員
- 大学生協事業連合東京ブロック学生委員、東京ブロック教職員委員ほか

3 次年度以降の計画・抱負

【研究活動】

- 研究のとりまとめを継続する。

【教育活動】

- 昨年末に、他の教員と、会計カリキュラム動画を作成したので、それを利用しながら指導を行う。
- 新任教員が入り、前提科目の内容や担当科目が変わったので、その準備を進めながら、調整を行っていく。
- 春休み中に、公式 LINE の勉強・設定を行ったので、それを用いた教育活動を行っていく。
- 大学院担当初年度のため、大学院の講義の準備も行う。